

告示	番号	7	悪性新生物
	疾病名	褐色細胞腫	

褐色細胞腫

かっしょくさいぼうしゅ

概要・定義

副腎髄質のクロム親和性細胞から生じた腫瘍。傍神経節から生じたものは特に傍神経節腫（パラガングリオーマ）と呼ばれる。臨床的にも検査データ上もカテコラミン過剰産生を伴う機能性のものと、そうではない非機能性のものがある。また、傍神経節腫では、交感神経由来と副交感神経由来のものがある。

症状

機能性では、カテコラミン過剰産生に伴う諸症状をきたす。特に、発作時のみ高血圧、頭痛、動悸、発汗が起こるもの（エピネフリン産生－発作型）と持続性の高血圧症状や感情不安定、体重減少など代謝亢進症状の見られるもの（ノルエピネフリン産生－持続型）とに分けられる。

治療

良性例では外科的切除で治癒する。しかし、悪性例では有用な治療方法がない。そのため、カテコラミン過剰症状を抑える治療、外科的手術による腫瘍容積の減量、 α 、 β 遮断薬を中心とした薬物療法が行われる。また、cyclophosphamide、vincristine、dacarbazine による化学療法や分子標的治療（チロシンキナーゼ阻害薬や mTOR 阻害薬）、 ^{131}I -MIBG 治療なども試みられている。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_5_64.html